能登町立鵜川中学校

１　目標

教育をつかさどる教師として望ましい教養と資質の向上をはかり、確かな指導力を身につける。

２　研究主題

学習意欲を高める指導の工夫　　～　基礎・基本の定着を目指して　～

３　「研究」の前に

（１）授業規律の確立を目指して

本校では授業規律等の確立を目指して以下の取り組みを行っている。

・ 一斉指導が基本であることを認識し、そのうえで小集団活動を効果的に取り入れる。
・ チャイムとともに授業を始めチャイムとともに授業を終える。また挨拶をしっかりさせる。
・ 支援が必要な生徒への配慮をする。有益な情報があれば共有する。
・ 授業に音読の時間を入れる。
・ 宿題の取り組みが不十分な生徒に対しては、家庭での実情を考慮に入れたうえで指導する。
・ 計算コンテストやスペリングコンテストは全校挙げて取り組む。
・ 自習時間は、一切しゃべらせず、黙々と勉強させる。けじめをつけさせる。
・ 筆記用具の使い方を指導し、丁寧な筆記に努めさせる。
・ プリント学習等をおこなう際、まず記名させる。また最後まで粘り強く取り組むよう指導する。

（２）アンケートの結果から

生徒に対しては、規律面からのアンケートを学期に１回ずつ実施している。１２月の結果、指定された筆記用具の使用などについては高い評価が出ている。しかし次の項目についてはプラス評価が７割を切っており、指導の改善を図る必要がある。

・チャイムが鳴る前に学習道具を準備すること。
・字を丁寧に書くこと。
・授業の始めと終わりの挨拶を丁寧に行うこと。

４　研究主題の設定理由

平成２０・２１年度道徳教育実践研究事業や平成２２年度活用力向上パイロット事業、学力向上プランの実施をつうじて研究を推進してきた。

（１）指導の改善

①授業のねらいをしぼり、そのねらいに迫る中心発問を工夫する。
②抽出児の変容に注目することで、生徒の授業理解度をとらえる。
③各教科で言語活動を意識した授業を組み立てる。

（２）生徒の変容

①ねらいに沿った学習の習慣が身につき、授業内容の理解が深まった。
②特に指導が必要な生徒が、授業のねらいを理解し、落ち着いて授業に取り組むようになった。

③言語活動が活発化し、自分の意見を発表する機会が増え、発表活動に慣れてきた。

（３）生徒の現状

①基礎・基本の定着がいまだ不十分であり、学習意欲も高いとはいえない。

②根拠や筋道を明確にしながら表現する力が不足している。

このような現状を踏まえ、今一度指導技術を洗い直し、生徒の基礎学力向上を図るため、上記研究主題を設定した。

５　研究の方向と方法

（１）方向

①「ねらいと課題」「学習活動」「まとめや振り返り」を明確にし、発問・指示や板書などを工夫することによって、生徒の学習が進み、基礎・基本が定着する授業を展開する。

②小集団を効果的に活用し、言語活動を充実させることによって、学習意欲を高める。

③根拠や筋道を明確にしながら表現する方法を学ばせ、授業の中で実際に表現する場面を作ることによって達成感を持たせる。

④「教師の言語活動」の改善に取り組むとともに、特別支援教育の視点を生かした指導技術を身につける。また、抽出児を基軸とした授業の組み立てを工夫する。

（２）方法

①一人年２回以上の授業公開の他、自主公開を推進し、教科の壁を越えて参観する。

②全体研修を核にしながらも、ミニ授業整理会などを積極的に行うことで研修の日常化を図る。

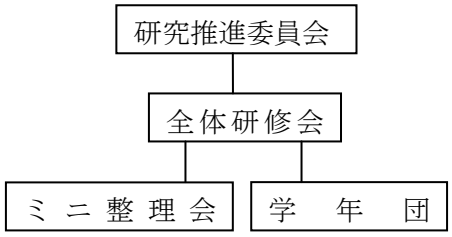
③研究主題に連動した個人研究テーマを設定し，取り組みの成果をレポートにまとめ交流する。

④授業の撮影または録音の記録をもとに、音声を文字化することによって「教師の言語活動」を振り返り、改善に役立てる。

⑤サポート研修の活用など外部の識者から積極的に学ぶ。

⑥小中高連携による情報交換や公開授業を積極的におこない、指導の改善を図る。

６　研究組織について



《研究推進委員会》

・研究全体の状況把握と方向づけ

・研究推進の計画・立案・検討・調整

・授業研究計画の立案、授業整理会の運営、今後の課題の提起

・学校内外への情報の発信

《全体研修会》《ミニ整理会》

授業整理会の他、次の事項をあつかう。

・個人研究テーマの進捗状況の報告　・先進校視察報告　・教育理論の学習　・成果の検証

《学年団》

・担任と副担任の両者が、相互にあるいは共同で道徳の授業を担当し切磋琢磨することで、授業づくりの基礎を養う。

・学年として取り組むべき課題についての研究・実践を発信することで日常的な研修の一環とする。

7　個人研究テーマ

本校では、研究主題等の下で個人が独自の研究テーマを設定している。この個人研究テーマに基づき具体的な取り組みを展開することで、生徒の学習意欲を高めることを意図している。

個人研究テーマは次のとおり。

栂	語順に気をつけたライティング
池上	科学的な思考を表現していく工夫
柿平	ノート指導の工夫
坂口	生徒の実態に応じた支援やツールの工夫
中社	発問を絞ってリズムとテンポのある授業
道浦	基礎基本の定着と充実感のもてる授業づくり
山下	指示・発問・説明の明確化を目指して
吉延	運動の正しい行い方を意識させる授業の工夫

8　具体的な取り組み

これまで一人２回の研究授業に取り組むとともに（この取り組みは現在も継続中である）、研究授業以外でも研究を深めてきた。以下はその実践の一部である。

（１）「ねらいと課題」「学習活動」「まとめや振り返り」を明確にする試み（研究の方向①）

国語科実践レポート　　**個人テーマ　ノート指導の工夫**

1　授業内容の記録としてのノート

関連：本校の研究の方向「『ねらいと課題』『学習活動』『まとめや振り返り』を明確にし…」

工夫①ノートを縦に３分割する。上段…日付、中段…課題など、下段…学習活動の記録など

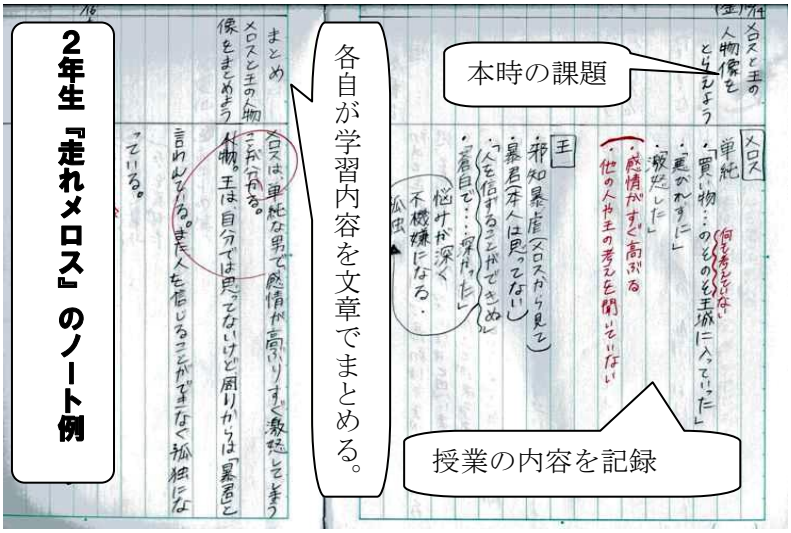
＊このように整理をすることで、学習した内容や流れがつかみやすくなる。

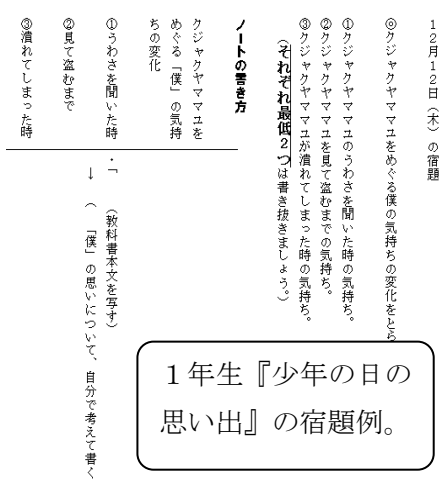
2　予習（宿題）内容の記録としてのノート

関連：学力向上プラン「授業理解に役立つと実感できる宿題を工夫する。」

工夫②予習で何をどのように行うかを、「ノートの書き方」として具体例を示して指示する。

＊指示が具体的なので、取り組みやすい。宿題の指示内容の難度がやや高めであっても、具体例をマニュアルとしながら、取り組んでいたようだ。





１年生『少年の日の思い出』の宿題例。

3　成果と課題

（1）　成果

これまで乱雑であったノートが一定程度整理されて書かれるようになってきた。

授業者も生徒も、授業の流れ（課題の提示→学習活動→まとめ）を意識出来るようになった。

（2）　課題

授業の中で行われる話し合いの活動や自分のひらめきなどをノートに記録する習慣が定着していない。これは生徒の意識の低さからではなく、そのための方法を会得させていないためである。さらにノート指導の工夫を凝らしていく必要がある。

（２） 言語活動を充実させることによって、学習意欲を高める試み（研究の方向②）

理科実践レポート　　**個人テーマ　科学的な思考を表現していく工夫**

テーマに基づき

（1）普段の授業の中で言語活動（事実と結果から自分の言葉で科学的に説明する）

（2）ワークシートにキーワードを組み入れ，考えをまとめて記述

などに取り組んだ。以下はその実践の中の一つである。

1　実施学年と実施日　　３年生　　１１月２７日（水）５限目

2　単元名　地球と宇宙

3　目標

・上弦の月が見えるときの太陽，月，地球の位置関係をとらえ，一日の中で上弦の月がどのように見えるのかを説明する。

・上弦の月が昇る，南中する，沈むのは，一日の中でいつ，どの方向になるのかを地球の自転と関連づけてとらえ，説明できる。

4　学力向上プランとの関係（カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応）

・言語活動を充実させ、根拠や筋道を明確にした表現活動を指導する。（→１）

・班での活動を活用し、多面的・多角的に思考したり自分の考えを深めたりできるよう指導する。

（→２）

5　学習の流れ

①　地球から見える月の形が日ごとに変わって見えることを確認する。

②　満月の見え方を振り返る。

③　本時の課題［上弦の月はどのように見えるか］を確認する。

④　班ごとに，月，太陽，地球を使って，上弦の月が見える位置にセットする。

⑤　地球儀を自転させることで，上弦の月が昇るとき，南中するとき，沈むときがいつ，どの方向，見える月の形（傾き）などを確かめる。（実験）

⑥　実験結果を基に，ワークシートにまとめを書く。

⑦　考えを発表する。　⑧　全体で検証し，まとめを確認する。　⑨『上弦』の由来を聞く

6　成果と課題

小集団活動における言語活動について

成果　・実験で確認したことをまとめるということと，ワークシートの工夫で概ねまとめられた。

・お互いに，見る位置や角度を変えながら工夫することで，課題を少しずつ解決していった。

課題　・男子は身を乗り出し，顔をくっつけて角度を意識しながら観察することで理解を深め，発見できたが，女子の方は，離れて観察するため，的確な結果をなかなか得ることができなかった。そのため，まとめをする際にも男子に頼り，自分の考えや言葉でまとめきれなかった。→　もっと顔を近づけさせたり，角度をつけさせたりする指示をしていれば的確に捉えることができ，自分でまとめるところまでできたのではないか。

今年度を振り返って　授業でわかったような錯覚を持ち，実は「理解できていない」「自分の言葉で科学的，論理的に説明できない」ことが次時の冒頭によく現れた。授業のまとめをおこなう際に，もう一歩押さえる工夫が要る。さらに，授業当日の復習課題を適切に与え定着させる手立て（授業と家庭学習をつなぐ，個に応じた策を講じて積み上げていくこと）が必要だと感じた。

（３） 筋道を明確にしながら表現する方法を学ばせる試み（研究の方向③）

特別支援　国語科実践レポート

個人テーマ　生徒の実態に応じた支援やツールの工夫

1　実施　　１１月２８日（水）５限目１１月２８日（水）５限目

2　単元名　　作文を書こう

3　目標　　・助詞「を」「に」「で」を正しく使って、文を作ることができる。　【書くこと】

・順序立てて、様子や思ったことを入れて書くことができる。　【書くこと】

4　内容と学習の流れ

・生徒の実態　三人共通助詞の使い方が正しくできない。

生徒Ｃ　思いついたことから書き順序が違ったり何度も繰り返し書いたりする。

生徒Ｂ　「したこと」は書けるが様子や思ったことはなかなか書けない。

という実態に対しての支援を考えた研究授業であった。支援やツールとして以下の５点を実践した。

①調理実習の写真を順に並びかえさせる。→順番を意識させる。様子を想起させる。

②「まず」「次に」「それから」「最後に」という順序を表す言葉とともに、したことを板書する。

③様子や感じたこと、思ったことを話させ、マークをつけて板書する。

④「まず」「次に」「それから」「最後に」という順序を表す言葉ごとに色チョークで囲み、その色のワークシートに文章を書かせる。→順番を意識させる。

⑤助詞の使い方を意識させるために、単語と単語の間に助詞カードを選んで入れさせる。

5　成果と課題

・導入の写真提示は効果的だったが、並びかえをさせるには８枚は多すぎて混乱を招いた。精選して４枚にすれば、もっと分かりやすく短時間にできただろう。

・助詞カードを選択して入れさせることで、助詞の使い方を意識させることができた。また、書く内容やヒントが分かるような板書をしたり、順序ごとに色分けしたり、色別のシートにしたりしたことで、順序を意識し、順序よく書くことができた。

・今までは１時間の授業の中で、写真を見て振り返り、同じように板書し、書く時間は２０分程度だったが、120 字から 800 字程で作文を全文書くことができていた。今回は、生徒たちは緊張するだろうとの予想し『はじめ・なか・おわり』の「なか」の部分（調理の様子）に絞って書かせたつもりだったが、参観者が多く、小学校の先生もいたことで予想以上に緊張していて、いつものようにサラサラとは書けなかった。また、順番や助詞をいつもより意識させたこともあって、これでいいのか自信がもてず、考え込んでいる様子も見られた。前半の生徒たちの緊張している様子を見て、臨機応変に予定を変更し、「まず」の部分をみんなで出し合いながら全体の場で文章化して手本を見せて安心感を与え、「次に」と「それから」の場面に絞って書かせれば、負担が少なくもっと書きやすかったと反省した。

・生徒たちの日頃の様子だけでなく、その日の状態に応じて、柔軟に対応できるようにしていきたい。

９　今年度の取り組みを振り返って

職員のアンケートから成果と課題を整理する。

（１）成果

・ねらいをしぼった授業展開を意識することができるようになってきた。

・付箋を利用した授業整理会について

…短時間に焦点化して話し合えるようにやり方を変えてみて、だんだんとよいやり方になっていった。

…具体的に話し合うことができた。

・教師の発問や指示を意識して授業をしたり参観したり、日ごろの授業を振り返り改善していくうえでよかった。

・全校あげてのコンテストの取り組みによって、冬休み明けテストに成果が出た。

（２）　課題

・研究の推進によって基礎・基本が定着したかどうかの見極めが難しい。

・今年度はそれぞれの取り組みで終わっていた。鵜川中としての評価が求められる。

・教育理論の学習会（特別支援の視点など）など全体で共有できる取り組みがあるとよい。

・学習規律について徹底させることができなかった。項目によって強化月間を設けたい。

・抽出児の視点については、授業の組み立ての段階で授業者は意識しているだろうが、指導案に特記する必要があるかどうか。

・本校生徒の授業中の学習意欲はそれほど低くはない。研究主題を一歩進めて「（ねらいを達成する上での）表現の場の工夫」などと焦点化していけばよい。